

定年退職に際して

中 田 賢 次 (化学教室)

永い間理学部の勤務の中で、御指導を戴きました先生方、またいろいろと御世話になりました職員の皆様に、理学部を去るにあたり、理学部廣報第4号の場をお借りして御礼申し上げます。

昭和22年3月に理学部化学教室木村研究室に研究室職員として採用されました。木村研究室での最初の仕事は、技官の方が退職するので、その方の仕事を大至急習得するようにとの仰せでありました。その仕事とは、ロンドンのアダムヒルガー社製E₂型石英分光写真器を使って、発光分光分析を行う事でした。この分光写真器は、備品台帳によれば、大正3年2月2日に柴田雄次先生が購入されたもので、当時では、貴重な分光写真器でありました。標準試料を使って10日間ほどの特訓で、各種元素の永存線が、正しく読めるようになり、うれしくてたまりませんでした。そして発光分光分析に自信を持ちました。当時は、この分光写真器を使って吸収スペクトルの測定もやっておりました。試料溶液をベリー管（中空の内管を調節して液層を加減するもの）に入れるだけで簡単に分析が行えました。この分光写真器は、昭和50年まで使っておりましたが、私にとっては大変思い出の深いお品でした。

またほかに、岩石の全分析を習得するようにとの事でした。地質学教室の久野久先生より戴きました岩石を、全分析するのですが、その頃は薬品のきれいなものが少なく大変に困りました。塩酸や硝酸は蒸溜し、精製できるものは精製して使

ました。また都市ガスの火力が弱くて電気炉でルツボを焼いたり、ピーカーの溶液は電気コンロで加熱しました。そのほかガラス器具が粗悪で、うすいアルカリ性の溶液でくもりガラスになったり、加熱中にすぐに割れてしまうなど、苦勞の連続でした。これらの事は、強く思い出として残っております。またチタンやマンガンの比色分析には、デュボスク比色計を使っている頃でもありました。

28年間おりました、木村健二郎先生、斎藤信房先生の両研究室、並びに、富永健教授に御指導とお世話になりました事を心から感謝致しております。ありがとうございました。

昭和50年10月から斎藤研究室から薬品室へと移りました。ここでは、危険物取扱者として、薬品の管理はもちろんですが、実験廃液の管理も大切な仕事です。その頃は、環境安全センターの御指導のもとで、実験廃液の回収を行なって戴いておりましたが、その廃液の中でハロゲン系廃液剤が時として石油缶に穴をあけてしまうとかお聞きして、もしかしたら御迷惑をおかけしたのではないかと思っております。まもなくして各学部にも部局廃液倉庫ができました。廃液を入れるためのポリ容器が貸与になり、その廃液倉庫の担当官を仰せつかりまして、理学部（生物化学教室を除く）の実験廃液のお世話が始められました。お蔭様で、皆様のお力添えで12月14日で445回を数える事ができました。環境安全センター発足当初から運営委員をされておられて、環境安全センター長でお

れる稲本直樹教授に永い間大変お世話になりました。ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

つぎに建物について、化学教室は、それまでありました旧館・本館に続いて新館が昭和58年に建ちました。この新館は16カ月の工期を終えて地上7階、地下1階、延床面積3,880㎡の規模で、実験室、研究室として、また危険物取扱最大数量30,358倍が取り扱える一般取扱所として申し分のない立派な規模の建物です。この化学新館で副危険物取扱者になっておりますが、保安監督者でおられます田隅三生教授に大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。また退職に際しまして、大変お世話になりました増田彰正教授に厚く御礼申し上げます。植物学教室鈴木美和子事務室主任、生物化学教室宮崎節子事務室主任お世話になりま

した御礼申し上げます。安全委員会などでお世話になりました化学教室の田上多佳子事務主任、平尾宣子事務室主任をはじめとする皆様、そして理学部事務室の皆様から心から御礼申し上げます。また学生実験でお世話になりました杉浦技官にも感謝申し上げます。最後に、ビル管法で義務づけられている飲料水中の残留塩素の測定では、毎日行われ本館で梅津恒技官、新館で杉本瑛さん、液体窒素およびドライアイスでお世話くださっている岡本實さんには大変お世話になりました。ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

光陰矢の如し、はやくも42年たちました。永い間大変お世話になりました。これからも若さを失わずにすごしたいと思っております。